第１回宇美町スポーツフェスタ（前夜祭）　町長挨拶文

11月26日（土）18：00～　中央公民館　大ホール

第１回宇美町スポーツフェスタが、本日の前夜祭と明日の2日間にわたり、このように盛大に開催されますことをとても嬉しく思っております。

また、開催にあたりましては、本町のスポーツの推進に日頃からご尽力いただいております「宇美町スポーツ協会」、「宇美町スポーツ少年団」、「ＮＰＯ法人ふみの里スポーツクラブ」、「宇美町スポーツ推進委員」の皆さん方が実行委員会を組織され、今回の企画をされたとお聞きしております。

それぞれの垣根を越えて、スポーツを通じたまちづくりにご尽力いただきましたことに、改めて敬意を表する次第であります。

この事業は、「コロナに負けんばい！！元気うみ創造プロジェクト事業として、町民提案型の共働事業の一つとして開催されるもので、本年度に実施される事業総数は２１事業となっております。既に多くの事業が実施されておりますが、どの事業も、町民の皆さん方の自由な発想と知恵と工夫で、宇美町を元気にしていただいているところでございます。

本日は、『音のない世界でつたわるもの』というテーマで、宇美町在住でデフサッカー（聴覚障がい者サッカー）日本代表ゴールキーパー、そして町のスポーツ推進委員としてもご活躍頂いております　さんにご講演いただくこととなっております。

松元さんは、宇美町出身で、小学校２年生の時に宇美町スポーツ少年団の桜原少年サッカークラブでサッカーを始められました。中学校の時に鹿児島県に転出され、高校は日本代表を数多く輩出した名門鹿児島実業高校に進学、大学は九州共立大学に進まれ、障害のある無しを超えてサッカーに打ち込まれました。その間、１６年間の長きにわたりデフサッカーの日本代表として活躍し、現在も世界を相手に戦っておられます。

実は私は、松元さんと縁がありまして、松元さんがサッカーを始めた小学校二年生の時、桜原少年サッカークラブの監督をしていたのが私でした。１０年間ぐらいでしたが子どもたちにサッカーを指導しておりまして、その中の一人が松元卓巳さんというわけです。

当時、松元さんは補聴器を使用していて、雨の日の練習や試合にとなると、補聴器を雨に濡れないように手で覆いながらプレイしていたのを鮮明に覚えております。そして、お母さんが心配そうに見守られていたのが印象的でした。

あのころの写真を探してみましたが、サッカーをやっている写真は少なくて、あった写真は、みんなで三郡山に登ったときの写真や年末に私の家で餅つきをした時の写真でした。練習もさることながら、いつも鬼ごっこをやったり、井野山に登ったり、サッカー以外の活動をよくやっていたような記憶があります。

当時私は、子どもたちを指導するために日本体育協会と日本サッカー協会が主催する指導者ライセンスを取得するための講習を長期間わたり受講してC級コーチライセンスという資格を取得していました。今でこそ当たり前になったライセンス制度でしたが、当時は、受講している人は少数でした。それまでは、指導者の経験値であるとか、指導者の感覚的なものによる指導がほとんどであったように思えます。

この講習では、スポーツの歴史であるとか、スポーツ医学、子どもたちの発育発達に応じたスポーツ指導の在り方などを学び。加えて、サッカーの専門的な理論や実技に加え、最後は実際に指導の実践をするという内容の講習でした。今思えば、その講習が子どもたちを指導するうえで非常に役に立ったと思っております。

サッカー協会は早くからこのライセンス制度を導入していて、Jリーグの監督になるにもこのライセンスが必要になります。そして、ライセンスを更新するには、定期的に講習を受講することが義務付けられており、常に新しい情報を知ることができます。

本日ご来場の皆さんの中には、指導者も沢山おられると思いますので、指導者講習や各競技協会にライセンス制度があれば是非取得していただき、研鑽を積んでいただきたいと思います。

話がかなりそれてしまいましたが、松元さんは自らの難聴という障がいを乗り越え、デフサッカー日本代表として世界と戦っているわけですが、その環境はとても国を代表しているとは言い難い状況にあります。

５年ぐらい前になりますか、宗像市でデフサッカー日本代表の試合があるというので応援に行きました。まずビックリしたのは、半分くらい芝生が剥げたようなグランドでの試合だったこと。宇美町の総合スポーツ公園のほうがよっぽど芝のコンディションが良くて、とても日本代表が戦うようなグランドではありませんでした。

もう一つは、現在、カタールでサッカーのワールドカップが開催されていますが、サッカー日本代表のユニフォームといえば皆さんご存じの青色ですよね。八咫烏（ヤタガラス）がデザインされたエンブレムが胸に入っているやつですが、フットサルやビーチサッカーの日本代表は日本サッカー協会の傘下で、青色のユニフォームを使用していますが、デフサッカーは傘下ではないためそのユニフォームを使用していませんでした。使用できないとのことでした。また、合宿や海外遠征も個人がお金を出して参加していることも初めて知りました。

２０２０年オリンピック・パラリンピックが東京で開催されるなど、だんだんと障がい者スポーツへの理解を進んできたように思えますが、まだまだ、解決しなければならない問題が山積しているように思います。

同じ競技であるならば、同じ条件・環境で競技に望むことができる日が、一日も早く来ることを心から願っておりますし、私自身、これからも声をあげていきたいと思っております。

また、明日の講師には、宇美町在住でアンプティサッカーの元日本代表、野間口圭介さんも講師として参加されます。アンプティサッカーとは手足の切断障害を持った選手が行うサッカーで、野間口さんは足の切断障害により、松葉杖でサッカーをされます。初めて拝見した時は、松葉杖を上手に操り、シュートの威力もとても強く、起用にプレイされている姿に驚きを隠しきれませんでした。

そのようなお二人が宇美町在住であることに、誇りに思いますし、お二人にスポットライトを当てていただいた宇美町スポーツフェスタ実行委員会の皆様に心からの敬意と感謝を申し上げる次第であります。

結びになりますが、第１回宇美町スポーツフェスタの成功を祈念いたしますとともに、本日お集まりいただいた皆様の益々のご健勝を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。